

## 序 文

我が国の航空宇宙工業は、終戦後7年間のブランクを経て、昭和27年に始まる米軍機の修理による技術の習得から航空機事業を再開し、また先進国に遅れて、昭和45年に我が国初の人工衛星「おおすみ」を打ち上げ、宇宙工業分野で研究開発が本格的にスタートした。

戦後の航空機事業再開から50年、航空機分野ではF-86、F-104、F-4、F-15と世界の最新鋭戦闘機をライセンス生産するとともに、これらを通じて蓄積した技術をベースにT-2、T-4練習機やF-1支援戦闘機等の国産開発を行い、そして日米共同による世界最高水準のF-2支援戦闘機開発を成功させ、現在は、次期輸送機及び次期固定翼対潜機の開発を推進している。また、YS-11旅客機やMU-2、MU-300ビジネス機を国内開発するとともに、優れた生産技術等を背景としてボーイング767、777をはじめとする国際共同民間機プログラムへの積極的参加も増加している。宇宙分野では、H-Aの成功により、国際打ち上げ市場への参入の足がかりを固めつつある他、科学衛星技術分野では世界的成果を挙げるとともに、実用衛星の分野でも利用が拡大している。

このように目覚ましい発展を遂げた日本の航空宇宙工業であるが、その背景には常に欧米レベルへの挽回と凌駕を目指し、いろいろなプロジェクトの出現機会をとらえた先人の挑戦があった。このような進歩、変化の激しい時代の経験は、将来を展望するときの貴重な財産でありまた資料となる。

以上の見地から、平成14年に日本航空宇宙工業会が創立50周年を迎えた記念の一環として、「日本の航空宇宙工業50年の歩み」を刊行することとした。

本誌は、我が国の航空宇宙分野のプロジェクトを客観的に記述することにより、戦後50年にわたる航空宇宙工業の発展の歴史を総括することを目的としているが、航空宇宙工業の活動に関する資料として、航空宇宙産業界へのご理解とご支援を戴く上での一助となれば幸甚である。

終わりに、本誌を編纂・刊行するにあたり、ご支援いただいた多くの皆様方に深く謝意を表する次第である。

平成15年5月

社団法人 日本航空宇宙工業会  
会長 西岡 喬